

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470201072
法人名	社会福祉法人 豊心会
事業所名	和幸苑グループホーム望み
訪問調査日	平成20年10月30日
評価確定日	平成20年12月25日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4470201072
法人名	社会福祉法人 豊心会
事業所名	和幸苑グループホーム望み
所在地	別府市亀川東町20番14号 (電話) 0977-67-3376

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(平成20年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 9月14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート鉄骨造瓦葺、平屋建	
	1階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (120,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.13 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うちくら内科医院 鶴見台病院 ミヨシ医院 愛歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 吹き抜けの天井の天窓から明るい光が差し込み、広々とした空間にゆとりを持って家具が配置され、思い思いの場所でくつろぐことができる。また、隣接する同法人のグループホームとはテラスでつながっており自由に行き来ができる。
- 2 職員が鍵をかけないケアの大切さについて理解しており、見守りながら一緒に外出したり、ふるさと訪問など一人ひとりの思いに寄り添って柔軟な支援を行っている。
- 3 食事は毎回、職員の手作りを提供し、利用者と同じ食卓を囲んで、楽しく食事ができるような雰囲気作りを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善点について職員で話し合い、改善計画シートを作成し改善に向けての取り組みを行っている。改善課題であった備蓄品を揃え、思いや意向の把握について全職員でアセスメントシートに情報を書き込み共有できるように取り組み、改善されている。重度化や終末期に向けた方針の共有については、研修や関係者との話し合いを行う等、積極的に取り組んでいるが、意思確認書の作成は行っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的について話し合い、職員各自が書いた自己評価を持ち寄り、話し合いをしてまとめている。職員それぞれが自己評価に取り組むことで日頃のケアについて改めて見つめ直す機会になっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、開催される運営推進会議では、状況報告、活動報告の他に、認知症フォーラムへのお誘いや、ターミナルケアの説明、小規模多機能型居宅介護の説明など家族や地域の方へ介護情報を提供している。意見や質問も多く出されている。出された意見については職員間で検討し積極的に取り入れている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族会では、職員が席を外して家族だけの時間を設け、自由に意見が出るような配慮がなされている。運営推進会議でも意見を出してもらっている。日頃の面会時などにも話しやすい雰囲気作りにも努め、多くの意見ももらっている。出された意見については職員間で検討し積極的に取り入れている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>所長を中心に地域との交流を積極的に行い地域の一員として自治会に加入している。敬老会に参加したり、事業所主催の餅つき大会を計画するなど交流に努めている。近くの保育園と月1回の交流を行っている。近くで火災があった時に、すぐに自治会長より安否確認の電話を頂くなど、災害時の連携ができています。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域における福祉社会の増進と発展に寄与する」という法人の理念のほかに「地域に開かれたグループホームであるとともに、利用者が地域の一員として生活することを支えます」という事業所独自の理念を、所長、園長と職員で話し合い作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の異動や採用時には必ず理念を伝え、理解してもらっている。申し送り時や会議の時には、利用者本位に考え、地域に密着したサービスとなっているかを考慮しながら話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の一員として受け入れられている。パットゴルフのお誘いを受けたり、敬老会やぜんざい会など地域の行事に参加するとともに、事業所主催の運動会や餅つきに地域の方を誘うなどの交流も行っている。保育所との交流も月に1回行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的について話し合い、全員で自己評価に取り組み、日頃のケアの振り返りや気づきに役立てている。外部評価終了後も会議を開き改善計画シートを作成して改善に向けての取り組みを行っている。		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、事業所からの状況報告だけでなく、家族や地域の方に向けて認知症フォーラムへのお誘いやターミナルケアの説明などの情報提供を積極的に行っている。サービス評価の報告も行っている。参加者からの質問や意見も多くあり、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への参加はまだないが、事業所の取り組みを知ってもらうために毎回の運営推進会議の議事録を渡している。研修会、フォーラムには市担当者にも参加してもらうなど関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態やエピソード、金銭管理などは月1回の手紙で報告し、状態変化時や受診の時には電話でその都度連絡している。また、利用者の普段の様子を撮りためた写真をアルバムにして年1回家族に渡している。職員の異動があるときは家族会や訪問時、手紙を通じて家族に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から話しやすい雰囲気作りに留意し、家族から多くの意見を得ている。出された意見、要望などは話し合い、運営に反映させている。年2回の家族会では管理者や職員が席を外し家族同士で話し合う時間を作り、自由に意見が出せるような配慮を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することを継続できるよう努めているが、やむを得ず異動がある場合は利用者నికిきちんと紹介している。新しい職員は配属前に少しずつ利用者నికి馴染んでもらえる時間を作っている。異動した職員は異動後も遊びに来るなど断ち切れない関係作りに努め、利用者のダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宅老所・グループホーム大分県連絡会の研修などに全ての職員が順番に参加できるよう勤務の調整を行っている。新任者研修としてグループホームに適する人になるための適性、感性、役割など、意識改革を盛り込んだ研修を行っている。働きながらの悩みなどについてのアドバイスや指導を受けるしくみがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会に参加し、2ヶ月に1回の研修や同業者との交流を図っている。相互訪問を積極的に行いサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に自宅や病院を訪問し、本人や家族との話し合いの場を持ち、馴染みの関係を作りながら、安心して納得した上でサービス開始となるようにしている。納得を得るのが難しい場合には、時間をかけながらゆっくり馴染んでもらうよう利用者の気持ちに寄り添った支援を行っている。利用前の見学も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬しており、共に暮らす同士として相談したり、利用者から励ましてもらった場面もあり、支えあう関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者からの情報、日頃のかかわりの中で利用者の思いや意向を把握し、アセスメントシートに気付いたことを全職員で記入し情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の会話の中から本人や家族の希望を聞き、反映させるようにしている。アセスメントシートをもとに職員間で話し合いを行い、利用者主体の暮らしを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングで本人の意向や状況を確認しながら、3ヶ月に1度、計画の見直しを行っている。新たな変化や要望がないときは更新をしている。急変時など、利用者の変化に即して見直しを行い、機能低下予防などに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて受診や入退院の送迎、レクリエーションとして水族館やふるさとへのドライブを行っている。帰宅願望の強い人にはその都度、希望に添った支援を柔軟に行い、安心して暮らせるよう対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添った、かかりつけ医との関係が密になるように受診時に日常の状況や状態の報告や相談を行っている。24時間体制で往診に応じてくれる協力医があり受診に対応できないときに看護師が訪問してくれるなど、柔軟な支援関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについて職員で研修を行い、理解と意欲の育成に努めている。家族、医師、職員で話し合いを行っている。重度化や終末期のあり方について本人や家族の思いを聞いているが意思確認書の作成は行っていない。	○	家族、医師、職員など関係者全員の方針を統一し、状況の変化に応じて話し合いを重ねるしくみとして、意思確認書を作成して全員で方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に配慮している。個人情報保護に努め、方針を掲示している。新人研修の中に言葉かけや対応について具体的に盛り込まれており周知徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに添って、起床時間をずらしたり、一日の過ごし方を本人の意向をその都度確認しながら柔軟な支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートでお好み焼きを作るなど、一連の作業と一緒に楽しみながら行っている。食後の片づけを一緒にしてくれる利用者もいる。食事は利用者と職員と一緒に食卓を囲んで、利用者と同じものを楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉地という地域性から日中の入浴習慣があり、現在は夜の入浴希望者がいないため、午後から一日おきの入浴となっている。希望があれば夜間や毎日の入浴に対応する準備がある。入浴を嫌がる人には足浴をうながしたり、仲の良い利用者に誘ってもらうなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や洗濯物たたみを一緒にしてくれる人、花を売ってくれる人、薬局勤務経験がある人に薬の仕分けを手伝ってもらうなど、生活歴や力を活かした役割、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物やドライブの他に、水族館や花見に出かけている。近所への散歩や戸外に出て気分転換を図ることもある。家に帰りたいなど、利用者の希望にも柔軟に対応し支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけない暮らしの大切さについて理解し、日中は鍵をかけていない。職員が一人ひとりの所在確認をし、外へ出る人がいれば一緒に外出するなど見守りを行っている。帰宅願望の強い人の思いを理解し、柔軟に対応することで安心して暮らしていけるよう支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	屋外に備蓄品を入れた倉庫を設置している。利用者と職員で避難訓練を行っている。海に近い場所にあるため台風の時には、高台にある同法人の施設に事前に避難するなどの対策がある。近くで火災があった時に自治会長が安否確認の電話を入れてくれる等、地域の支援関係も築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握しており、献立に反映している。食事摂取量や水分摂取量を記録し、職員が情報を共有している。特に水分を摂りにくい人についてはケアプランに反映し水分不足にならないよう注意を喚起するなどの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの天井に天窓をしつらえ、明るく開放感のあるつくりになっている。テーブル席やソファなどがゆとりをもって配置され思い思いの場所でくつろぐことができるよう工夫している。季節の花や外出時の写真を飾り、利用者の好きな童謡やオルゴールの音楽を流すなど、生活感、季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や写真、使い慣れた時計など、利用者それぞれの希望に添った物が持ち込まれ、その人らしく過ごせるよう工夫をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	和幸苑グループホーム望み
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	別府市
記入者名 (管理者)	宮脇 命人
記入日	平成 20年 8月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホームが地域に開かれたものとするとともに、利用者が地域社会の一員として生活することを支えます」を理念の柱においています	
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	異動や採用時、必ず理念を伝え理解してもらうようにしています	
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議等で説明して、理解していただけるよう取り組んでいます	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶を交わしたり、近隣の方が施設内の見学をさせてくださいと、訪ねて来られる事もあります	
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入しています。自治会敬老会や保育園の慰問など地域の方との交流もあります	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の福祉科や看護学生の実習やボランティアの受入れを積極的に行っています		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしています		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、状況報告や話し合いを行っています。家族、自治会長、民生委員等の意見を検討し積極的に取り入れています		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の高齢者福祉課との連絡を密にとり、事業所で研修を行ったり、事業所の実績やケアサービスの取り組みを伝えています		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している方がおり、後見人との交流もある為、希望者にはスムーズに支援できるようにしています		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学ぶ機会があるときは、全職員で周知・理解できるよう取り組んでいきたいです	○	全職員の周知の徹底・理解に努めたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明を1つずつ行い、利用者や家族等の不安や疑問点に答えられるようにしています		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度より、出来るだけ利用者本位になるように心掛けています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、状態やエピソード等を手紙にして家族に報告を行っています。状態変化時や病院受診依頼後も、家族に電話で状態を伝えています		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議以外にも、年に2回家族会を設け家族同士の集まりが出来る様にしています。また、面会時など状態報告を行い家族の要望などないか聞くように努めています		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、グループホーム会議を開き、職員の意見を聞ける機会を設けています		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤は3対1になるように勤務調整を行っています。又、管理者・計画作成担当者は状況に応じた対応が出来るよう、夜間シフトから外しています		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケアが持続できるよう努めていますが、やむを得ず異動がある場合は、利用者నికిきちんと紹介し、早く馴染めるよう配慮しています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為のスキルアップの研修やグループホームの研修の参加の奨励を行っています	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度のグループホーム協議会の研修を通して、他のグループホームの職員との交流が図れるようになっています	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ビアガーデンなど職場から開放されて楽しむ場を提供しています。又、日常的に管理者が職員の話聞くことでストレスや悩みの把握に努めています	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者はフロアで利用者と過ごしながら、個別職員の業務や悩みの把握に努めています。又、資格取得の為の支援を積極的に行っています	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前の面接などで、本人と話し合いの場を持ち家族だけでなく本人の話聞くようにしています	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時から、家族の話聞きスムーズに利用できるようにしています	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況を確認し、早急な対応が必要なときは、地域包括支援センターの紹介も行っています		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、管理者と計画作成担当者が自宅や病院を訪問し、本人と少しでも馴染みになれるようにしています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夜間居室に行くと、「大変な仕事やな」と職員を励ましてくれる方がいます。また、昔の話を聞き、共感しあっています		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、家族へ最近の様子などを報告したり、相談したりしています		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には居室でゆっくり会話をしていただけるよう心がけています。家族会を開き交流が出来るよう支援しています		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、馴染みの方の面会を大切にし交流をしています。ドライブで家の近くや前を通って、昔の話をしたりしています		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーション・体操・行事など参加できるよう声かけを行って参加が見られています。手作りクッキングを定期的に行い、利用者同士が協力して作っています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了者は、入院先での死亡が多く継続的な関わりは持っていません		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めています。言葉や表情等からも確認するようにし、意思疎通が困難な方は家族や関係者から情報を得るようにしています		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅や本人を訪問したり、本人・家族等から聞き取りをしています。利用後も本人や家族よりどんな生活がしていきたいかの把握に努めています		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムをつかむと共に、本人の出来ることやわかることの把握に努めています		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の会話の中で、本人や家族の希望を聞くことで介護計画作りを目指しています		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとの見直しは行っていますが、新たな要望や変化が見られない時の計画作成が出来ないときがあります		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開設準備段階より精神科のDrと連携し、認知症に対しての指示や助言をもらっています		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約は行なっていませんが、日常的な相談もかかりつけ医やかかりつけ病院看護師に行っています		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には病院Drと相談し、出来るだけ早期退院できるよう情報交換を行っています		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・医師・職員で話し合いを行っています。状態の変化を家族に連絡し支援につなげています		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の希望に添えるよう、医師との連携も取り、急変時にはすぐに対応していただけるようにしている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境や暮らしの変化によるダメージを最小にする為に、アセスメントや支援状況など本人の情報提供を行いダメージを減らすよう努めています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレなどの声かけや誘導は、利用者のそばに行き聞こえるようにし誇りやプライバシーに配慮しています。職員は個人情報保護法に理解でき、秘密保持されています	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	花壇の草取りを希望される利用者と一緒に草むしりをしたり、掃除のお手伝いをしていただくことがあります。食材などの買い物も一緒に行くこともあります	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビ鑑賞、パズル、本読みなど自分で選ばれています。気分転換にドライブに出かけることもあります	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で服を選んで着られる方は自分で選ぶようにしていただいています。お化粧の好きな方の化粧品の補充や、美容室の来苑などの援助も行っています	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好むお好み焼きや、焼きそばなどは一緒にテーブルを囲んで作ったり、一緒に食べたりしています。食器洗いや、食器拭きなどは積極的にお手伝いしてくる方もいます	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒やタバコを吸われる方はいませんが、好みのおやつなどは状況や状態に合わせて日常的に楽しめるよう支援しています	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間もみてトイレ誘導することにより、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。夜間は尿取りパットを使用し、日中は紙パンツのみ使用している利用者もいます		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	仲の良い方同士は一緒に入浴を行っています。入浴を拒む方は足浴をうながしてみたり、言葉かけによるチームプレイによって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みています		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動を促し生活リズムを整えるよう努めています。場合によっては、医師と相談し睡眠・薬剤などについて全体的な調節もいただいています。一人一人の体調に等に配慮し昼寝を促しています		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活を楽しめるように、お願い出来るような仕事を頼んだり、生活リハビリなどの声かけを行っています。また感謝の気持ちを本人に分るよう伝えていきます。利用者も「お手伝いが楽しい」「何でも言ってください」と意欲も見られます		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布に小額所持し手いる方もいらっしゃいますが、普段は買い物に行くとき等にお渡し、自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげています		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物・ドライブ等に出かけ、気分転換やストレス発散をしています。外食や水族館などにも出かけたり、お弁当を持って花見やみかん狩りなどにも行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「家に帰りたい」などの利用者の思いが出されたときは、職員同士で検討し、支援につなげています。また、家族とも相談し協力を得ています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の為頻繁に「電話をかけてください」と訴える利用者に対しては行えていません	○	字が書ける利用者は、家族に年賀状など書けるよう支援して行きたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶を出し好きな場所での会話を楽しんで頂いています。面会時間は決まっておらず、いつでも来苑していただけるよう気配りをしています		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならないよう、利用者の見守りが出来る所での記録や、話を常に所在確認を行って、安全に努めています		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は鍵をかけておらず、職員が一人一人の所在把握を心がけています。また、外出しようとする方に対しては、一緒に外に出て話をしたりドライブに行き気分転換をしていただいています		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者の見守りが出来る位置に職員がおり、所在把握出来る様にしています。夜間は2時間おきの見回りをし、物音がすると様子を見に行くようにしています		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人一人に合わせケアを行なっています。薬や裁縫道具など見守り、把握できないものに関しては職員が管理を行っています		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた時はすぐに事故報告書を提出し、再発防止の為の話を行っています。また、転倒、窒息などはマニュアルを作成し、状態に合わせた対応に取り組んでいます		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルはあるが、職員が応急手当や対応訓練を定期的に行えてはいない	○	緊急時の対応や、勉強会などを定期的に行っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2度利用者と共に防災訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や折をみて本人の状況や状態を話し、苑での生活の中でもリスクがあることを伝えています		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の顔色や様子に注意し、バイタル測定を定期的に行っている。また、状況によりかかりつけ医に連絡し指示をもらっている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを綴り見て分るようにしています。分らない薬があればDrや看護師に聞き理解しています		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作り、都度記入しています。便秘薬服用する方には排便チェックにて定期的な排便が出来るよう援助しています。又、服薬管理で出ない方は、Dr指示にて浣腸を行っています		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1人で出来る方には声かけにて誘導を行っています。出来ない方は介助にて口腔ケアを行なっています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病がある方は、糖分・塩分量に気をつけ野菜が多めに食べられるよう提供しています。水分量に関しては、時間毎提供し水分不足にならないようにしています	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	協力医療機関のDrがおり、対応しています	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に、食材の購入は業者さんからの新鮮な物を配達をいただいています。台所では除菌に気を使っています。また、常に手洗いをし感染防止に努めています	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板等で分りやすくしています。玄関はいつも開けており、安心して出入りできるようにしています	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、廊下の壁に写真や創作したものをおいたりし家庭的にしています	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを仕切ったり、廊下に応接セットを設置しています	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのなじみのある目覚まし時計や、仏壇などを持ってこれ居心地の良い部屋になる様工夫しています		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、各部屋の窓を開けて空気の入替えを行っています。また、エアコンなどで温度調節も行い状況にあわせてこまめにおこなっています		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所・手すり・各部屋の洗面所や浴室など利用者に応じて生活しやすいよう工夫しています		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋においてあるぬいぐるみや、椅子などは思い違いにより危険があるときは、押入れの中にするなどし、出来るだけ自由に生活出来るように対応しています		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者の方が楽しめるよう、玄関にプランターを置き、花を植えています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

3食の食事は職員の手づくりの物を提供しています。また、苑庭の畑から野菜を収穫したり、テラスで日光浴や食材の買い物と一緒に出かけるともあります。